GLOBAL
CROSSVALUE
PLATFORM

BeecoProgram

データ連携により実現する国際競争力向上



丸紅株式会社
穀物油糧部事業開発課
BeecoProgramプロジェクトマネージャー
佐竹 啓雅

Marubeni

© Marubeni Corporation All Rights Reserved.

目次

P.3.　自己紹介
P.4.　業界課題
P.5.　諸外国の事例
P.6.　BeecoProgramの提供価値
P.7.　BeecoProgramのサービス一覧
P.8.　データ連携のための重要な論点
P.9.　おわりに

自己紹介

名前：佐竹 啓雅（さたけ ひろまさ）

現在の所属/担当業務：

- 丸紅穀物油糧部事業開発課
- BeecoProgramのプロジェクトマネージャー

経歴/これまでの担当業務

2009年～ 丸紅株式会社入社
- とうもろこしを中心とした主原料の商売/受渡

2017年～ ガビロン社（米国）への出向
- 米国産/ブラジル産等の飼料原料の買付

2019年～ 丸紅株式会社帰任
- 糟糠類を中心とした副原料の商売
- 新規事業の開発

2021年～ ファームノート社への出資、出向
BeecoProgramプロジェクト立ち上げ

2022年～ ファームノートデーリィプラットフォーム取締役就任

2025年～ ファームノートデーリィプラットフォーム取締役退任
丸紅株式会社帰任、現在に至る



業界課題（外部要因、構造要因、経営内部要因）

外部要因

自分たちでは
コントロールできない



相場・為替・
飼料価格の変動



需要の変化



気候の変動



家畜疾病の発生

構造要因

業界・地域全体の問題



担い手・
労働力の不足



輸入飼料への
依存



新規参入の
難しさ

経営内部要因

自分たちでコントロールできる
大規模化で求められる
経営能力が上がる



労務管理の
複雑化



ステークホルダー
の増加



経営判断の
高度化

酪農畜産業界には多くの課題が山積。
2050年に起こると言われる世界的な食料危機に向けて生産基盤の安定化を図っていきたい。

諸外国の事例（豪州vsイスラエルvs日本）

観点	豪州(肉牛)	イスラエル(乳牛)	日本(肉牛・乳牛)
中核となる仕組み	• NLIS(全国家畜個体識別システム)	• 牛群検定 • Herd Book(データベース) • NOA Program（管理ソフト）	• 牛群検定 • 牛トレーサビリティ制度（トレサ）
識別・記録の基盤	• 個体識別：RFIDデバイス装着の義務化 • 牧場識別：PIC（土地識別コード）での管理 • 在籍管理：中央データベースへの登録	• 牛のデータ全般：NOA Program • 牛群検定：Herd Book	• 個体識別：個体識別番号での管理義務化 • 牧場識別：農家コードの発行 • 在籍管理：トレサへの登録 • 牛群検定：北海道と都道府県で異なる
運営体制	MLAが100%子会社のISCを設立し、NLISデータベースを運営	ICBA（Israel Cattle Breeders Association ）による一元的に運営	関連する団体がそれぞれ管理
連携しているデータ	異動履歴、と畜場の枝肉・食味評価、ゲノム、疾病等が一元的に管理	Herd Bookには、乳量・繁殖のデータに加え、育種システム（SION（シオン）） と獣医師(Ha'Chaklait（ハカクレイト）)の治療情報も統合管理	トレサでは出生・異動・と畜の履歴が中心。枝肉格付、疾病・診療、繁殖のデータは別々に管理され、個体単位で国全体を横断して統合されていない
現場での活用	NLISはリアルタイムのデータを生産者に提供し、生産者に屠畜結果のみならず評価をフィードバックできる仕組み。また、これら一元管理されたデータを元に育種改良にも使われる。	NOA ProgramはHerd Bookと常時連携し、生産者がリアルタイムで判断できる。生産者の許諾の上で、獣医師や飼料会社等へのデータ連携がされ、フィードバックを受けられる仕組みが構築されている。	データを活用する意識は諸外国に比べると弱く、牛群検定においてもその普及率は50%を割り込み、年々減少傾向となっている。

牛肉輸出において世界2位の豪州の高い競争力、日本と飼養環境が酷似しているイスラエルの高い生産性を支えているのは"データの一元管理"にある。

BeecoProgramの提供価値



【提供価値】

① 生産データや財務データを一元管理できる可変性の高いデータベース

② 先端技術を取り入れて開発した様々な機能（体重推定アプリ、酪農畜産業界に特化したAIエージェント等々）

③ データ連携や共有を簡単に出来る基盤

【BeecoProgramの取得する特許】

✓ 動態表作成
- 対象牧場の先々の頭数予測
- 将来的な生産予測が可能

✓ 生成AIを活用した財務、生産成績分析

BeecoProgramは酪農畜産業界におけるデータインフラ。現場で活用されている様々なシステムのデータ統合により現場負荷を掛けることなく、データの一元管理を実現する。

BeecoProgramのサービス一覧

BeecoProgram

- 牛の個体登録、繁殖/疾病/異動と一生のデータ管理
- 事業計画作成や月次試算表の登録による予実管理



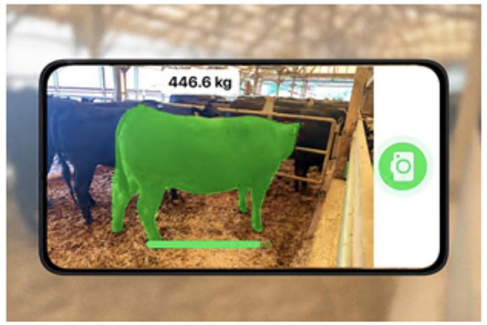
BeecoProgram AIエージェント

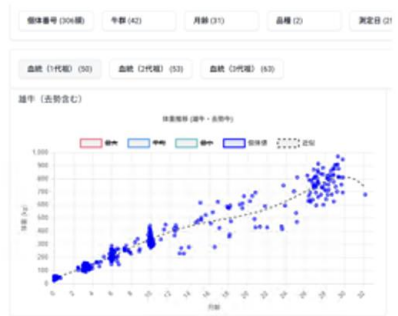
- AIとチャット形式であらゆる分析が実現
- 写真で撮った紙データをデータ化するAI OCR機能
- PowerPoint、Excel、Word作成機能



BeecoProgram 3D Scanner

- 国内初となるiPhone Proの牛の体重推定アプリ
- データ蓄積によって、成長曲線を作成





BeecoProgramは3つのサービスを提供。基盤となるBeecoProgram本体は生産者向けは無償で提供することで、データ統合の加速化に成功している。

データ連携のための重要な論点

- ✓データは誰のものか？
- ✓どういった条件でデータを連携するか？
- ✓許諾をどのように取得するのか？
- ✓どのようにシステムに落とし込むか？
- ✓どこまでが個人情報となるか？

これら論点を当社で起用する大手法律事務所と綿密に議論をし、データ連携のあるべき形をBeecoProgramに実装し、運用することが完了している。

おわりに

MISSION

次世代の子供たちが笑顔になれる世界を構築する

2050年。世界人口が97億人に達してしまう時代。
果たして誰がどうやって胃袋を満たすのだろうか。

2050年。CO2排出量が430億トンに達してしまう時代。
果たして住みやすい世界になっているのだろうか。

“お腹が空いては、笑顔は生まれない”
私たちがこの世に生まれ落ち、最初にミルクを口にしたときからこの本質はずっと変わらない。

一つの笑顔がまた新たな笑顔を生み、広がり、幸せへと繋がる世界へ。
私たちは、この世界を実現するために、今抱えている課題にしっかりと向き合い、持続可能な食のサプライチェーンの構築に全力を注いで参ります。

